

## 認知症に関する活動計画(概要)

島根県作業療法士会では、令和7年度も引き続き好評であった対面型の多職種での研修会の開催により、多職種連携に必要な顔が見えるつながりをつくることに重点をおいて活動していく予定です。また、認知症の人と家族の会との連携の在り方を検討していく予定です。

## 多職種での合同研修会「多職種連携によるBPSDの対応」(対話型研修会)

島根県の「認知症施策の推進」によると島根県における認知症高齢者数は、令和7年には44,900人(島根県人口の約7%)に増加することが見込まれています。認知症ケアにおいて、行動・心理症状(BPSD)への対応についてはチームで関わるのが重要であり、看護・介護職やケアマネジャーなど多職種での認知症ケアのスキル向上を目的に実施する予定です。行動・心理症状へのケアについて多職種の視点から価値観や情報を共有して実践につなげられるようにしていきます。令和6年度の開催実績として、理学療法士、介護職員、保健師などの参加があり、対話を通じて参加者の現場での困りごとの解決の糸口が得られる機会になりました。

令和7年度は、認知症看護認定看護師の方と連携して研修会を計画しています。



## 認知症の人と家族の会との連携事業

令和6年12月1日(日)認知症の人と家族の会島根県支部が行う本人交流会事業にサポートスタッフとして参加しました。当事者と家族が安心して一緒に食事や温泉が楽しめるように、移動や入浴の支援を行いました。なかなか当事者と一緒に旅行に出かけることが難しいご家庭が多い様子であり、ご本人のいつもと違う一面を見ることができ、気分転換や交流を深めるよい機会になりました。

作業療法士の強みは、認知症という病気だけでなく、認知症の方の個性やその人らしさ、そして、認知症の方を取り巻く環境も考慮したうえで、認知症の方をサポートできることです。(JAOTホームページより)



訪問した浄善寺の大銀杏

## RUN伴しまね への参加(松江・出雲・大田・浜田・益田地区)

県士会員が当事者や地域住民、他職種と協働して「認知症になっても安心して暮らせる町」を目指して活動しています。認知症の人と家族の会や行政と連携して研修会への参加やイベントの企画を行っています。

